

令和6（2024）年度

日本言語技術教育学会事務局通信第51号

謹賀新年

皆様に於かれましてはますます御清栄の段、何よりの慶事と心からお喜び申し上げます。昨年も大変お世話になりました。今年も本学会発展に際し、御支援・御協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、第32回研究大会は令和5年7月1日（土）に静岡県常葉大学静岡草薙キャンパスにおいて、実行委員長を務めてくださった中村孝一副会長を始め、現地事務局、院生・学生の皆様のお蔭で、リモートも含め72名の参加者により開催することができました。午前は『他者の発言に心傾けて』、『根拠を明確にして意見・感想を述べる』、『笑うから楽しい』、『高浜虚子の俳句を読み味わおう』をそれぞれの教材で4本の提案授業、午後はパネル・ディスカッション形式による提案授業の検討を行い、学習者に身に付けさせるべき言語技術を学び合いました。提案授業とその検討を同日に行うことで研究者と実践者が学び合う稀有な研究大会として多くの成果を上げることができました。また、ICTの利活用により、紙をできるだけ少なくする開催を実現することができました。

来年度は実行委員長を務めてくださる今井東副会長の御尽力により、第33回研究大会を令和6年6月29日（土）に群馬県育英短期大学で開催いたします。是非、多くの皆様に御参加いただきますようお願い申し上げます。

今年度も本学会の目的である「言語技術教育の創造を期し、我が国の国語科教育の改革および発展に貢献すること」を解決できますよう精進して参ります。

引き続き、皆様からの御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。

日本言語技術教育学会事務局長 渥美清孝拝

I 日本言語技術教育学会第32回研究大会静岡大会会長挨拶 柳谷直明

本研究大会を開催できることに深く感謝申し上げます。多くの皆様の御協力により、開催できることが大変嬉しい。

溪水社から刊行していただいた『言語技術教育32』に記載したように、小・中・高等学校国語科では、課題が山積である。授業が上手くいかない若い教員も多い。だからこそ、我々日本言語技術教育学会はよい授業、子供たちを伸ばす授業を目指し、指導者はどのような言語技術を使い、学習者にはどのような言語技術を使わせるかを学び合っている。言語活動の充実の無い対話、全ての授業の統一、指導事項の無系統などの課題解決のため、実践者と研究者が学び合う貴重な機会として本学会を発展させていきたい。本日は一日、多くを学んでいただき、得た学びを各地の学校における課題の解決に役立てていただきたい。

Ⅱ 日本言語技術教育学会第32回大会(静岡・ハイブリッド大会)報告

1 大会テーマなど

【大会テーマ】言語技術が見える授業づくり

【期 日】令和5(2023)年7月1日(土)

【後 援】文部科学省, 静岡県教育委員会

【会 場】常葉大学常葉大学静岡草薙(くさなぎ)キャンパス

[〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1]

【参加費】事前入金(6月23日締切)非会員4,500円 会員4,000円 学生2,000円

当日入金

非会員5,000円 会員4,500円 学生2,500円(資料他込)

懇親会(事前のみ)5,000円

2 日程

9:30 受付開始

9:50 諸連絡・進行 富樫忠浩(理事)

実行委員長挨拶 中村孝一(副会長)

9:55 開会挨拶 柳谷直明(会長)

第一部 提案授業

10:00~10:25 模擬授業1「話すこと・聞くこと」領域

教材名 『他者の発言に心傾けて』(小6)

授業者 中村麻里那(茨城大学教育学部附属中学校)

10:30~10:55 模擬授業2「書くこと(作文)」領域

教材名 『根拠を明確にして意見・感想を述べる』(中1)

授業者 西山明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校)

11:05~11:30 模擬授業3「読むこと(説明的な文章)」領域

教材名 『笑うから楽しい』(光村小6)

授業者 安 暁彦(茨城大学教育学部附属中学校)

11:35~12:00 模擬授業4「読むこと(文学的文章)」領域

教材名 『高浜虚子の俳句を味わおう』

授業者 野口芳宏(植草学園大学名誉教授)

12:00 諸連絡(昼食場所・総会案内等)

12:10 昼休み・理事会

13:00 学会総会(事業・会計報告, 事業・予算案等)

第二部 提案授業の検討

13:20~14:10 検討1「話すこと・聞くこと」領域

指定討論者・司会 大内善一(茨城大学名誉教授)

提案者 中村麻里那(茨城大学教育学部附属中学校)

指定討論者 西山悦子(台東区立東泉小学校)

篠原京子(東京未来大学)

渥美清孝(弟子屈町立和琴小学校)

國府田祐子(淑徳大学)

14 : 15~15 : 05 検討2 「書くこと(作文)」領域

指定討論者・司会 京野真樹(秋田大学教育文化学部附属小学校)

提案者 西山明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校)

指定討論者 小川智勢子(三郷市立吹上小学校)

増田 泉(常葉大学)

高木輝夫(ひたちなか市立勝倉小学校)

今井 東(元太田市立太田中学校)

15 : 15~16 : 05 検討3 「読むこと(説明的な文章)」領域

指定討論者・司会 開田晃央(大洗町立大洗小学校)

提案者 安暁彦(茨城大学教育学部附属中学校)

指定討論者 照井孝司(元岩手県公立小学校)

上原秀一(宇都宮大学)

中村孝一(常葉大学)

鶴田清司(都留文科大学名誉教授)

16 : 10~17 : 00 検討4 「読むこと(文学的な文章)」領域

指定討論者・司会 富樫忠浩(夕張市立ゆうばり小学校)

提案者 野口芳宏(植草学園大学名誉教授)

指定討論者 山中伸之(栃木市立大平西小学校)

長谷川祥子(青山学院大学)

柳谷直明(芦別市立啓成中学校)

佐藤洋一(名古屋学芸大学)

※ 所属は第32回静岡・ハイブリッド大会時のもの。

17 : 00 閉会挨拶

17 : 05 諸連絡, 懇親会案内他

3 第32回総会

大会開催日に総会を行った。理事会の運営, 事務局通信の発行, 大会紀要『言語技術教32』発刊, 第32回静岡・ハイブリッド大会開催業務等, 令和5年度の事業報告を行った。

本総会で承認された役員, 事業計画を掲載する。

(1)2024年度学会役員

【会長, 代表理事】 柳谷直明

【会長代行, 副会長】 中村孝一

【会長代行, 副会長】 渥美清孝

【会長代行, 副会長】 今井 東

【常任理事】

・柳谷直明 ・中村孝一 ・渥美清孝 ・今井 東 ・野口芳宏 ・大内善一

【理事】(五十音順)

・渥美清孝 ・井上善弘 ・今井 東 ・岩崎 淳 ・岩下 修 ・大内善一

- ・大貫眞弘 ・小川智勢子 ・開田晃央 ・木山麻衣子 ・京野真樹 ・國府田祐子
- ・小森 茂 ・佐藤洋一 ・篠原京子 ・高木輝夫 ・高橋 勲 ・高橋秀一
- ・鶴田清司 ・照井孝司 ・富樫いずみ ・富樫忠浩 ・中村孝一 ・中村麻里那
- ・西山悦子 ・野口芳宏 ・長谷川祥子 ・平河 力 ・兵藤伸彦 ・増田 泉
- ・松澤正仁 ・望月善次 ・安 暁彦 ・柳谷直明 ・山中伸之 ・吉川和良
- ・渡邊靖之 (計 37 名)

【監事】

- ・中村麻里那(茨城支部) ※理事と兼任 ・渡辺真由美(神田支部)

【事務局長】 渥美清孝 ※副会長と兼任

(2)事業計画

- ・令和6年度第2回理事会(令和5年9月3日)にて、研究大会企画検討、授業者・登壇者検討. 大会事務局組織, 令和5(2023)年度大会収支を含む令和5(2023)年度決算・監査報告, 令和6(2024)年度大会収支を含む令和6(2024)年度予算案を検討する。
- ・『言語技術教育 33』は溪水社からの発行を目指す。
- ・令和6(2024)年度大会の準備・運営を行う。

4 『言語技術教育 32』 内容

はじめに	柳谷直明
一 特集 私が主張する「言語技術教育論」	
◆ 言語技術教育解明試論 — 「鍛える国語教室」研究会(略称, 「鍛国研」)空知ゼミを例として —	柳谷直明
◆ 言語技術と新しいレトリック理論	大内善一
◆ 言語人格の向上に培う言語技術教育を	野口芳宏
◆ 教科内容としての「言語技術」をどう教えるか — 二つのカリキュラム観の統合 —	鶴田清司
◆ 言語技術の段階的・螺旋的指導で国語の学び方を教える	中村孝一
◆ 「学習者への対応の技術」の検討	渥美清孝
◆ 大学生に「説明」の技術を身に付けさせる授業の提案	今井 東
◆ 小学校国語科・論理的思考の壁を乗り越えるための論理的文章の授業提案	長谷川祥子
二 授業一 「話すこと・聞くこと」領域での言語技術指導	
— 教材名『他者の発言に心傾けて』(自主教材・小六) —	
◆ 国語科学習指導案『対応の言語技術を陶冶する「話すこと」の指導』小学六年生	中村麻里那
◆ 聞き取る・比べる・考えを述べる」の3ステップで対応の言語技術を陶冶する	同
◆ 他の人の発言に心を傾けて聞き取る言語技術の指導	大内善一
◆ 他者の発言をよく聞き, 理解し, 自分の考えを述べる	西山悦子
◆ スモールステップで無理なく指導する	篠原京子
◆ 「心傾けて聞く」言語技術	渥美清孝
◆ 読み上げる原稿の利点を生かした言語技術の育成	國府田祐子
◆ 習得と活用を意識した授業づくり	坂本 要
◆ 「論理的な対話力」はスモールステップで育成する	瀧沢葉子

◆ 論理的に「聞いて、話す」ための言語技術	渡辺真由美
◆ 【話すこと・聞くこと】領域での言語技術とその指導法	太田 等
◆ 「キーワード」に着目させて「話すこと・聞くこと」指導を行う	大木真智子
三 授業二 「書くこと」領域での言語技術指導	
— 教材名『根拠を明確にして意見・感想を述べる』（中一）—	
◆ 国語科学習指導案『根拠を明確にして意見・感想を述べる』中学一年生	西山明人
◆ 一貫性がある論理的文章を組み立てたとき「根拠が明確である」といえる	同
◆ 非連続テキストと言葉をつなぐ問いの生成技術	京野真樹
◆ 論理的文章を書くための基礎となる言語技術を指導する	小川智勢子
◆ 小学校での学びを活かし、根拠を明確にして意見・感想を述べる言語技術	増田 泉
◆ 「理由」の言語化と「理由」の内容の吟味を習慣化させる	今井 東
◆ 根拠を明確にして書くときの留意点 — 「根拠・理由・主張の三点セット」の重要性—	鶴田清司
◆ 根拠を明確にして書くための「引用」の技術	大淵康孝
◆ 根拠が明確な文章を書くための三つの言語技術	田邊 泰
◆ 書くまでの指導が大事 — 自分・対象・相手への問いかけを重視する —	平河 力
◆ 優れた描写力をつけることで、根拠に説得性を持たせる	小泉尚子
◆ 根拠を明確にして意見・感想を述べるための構成を示す	伊藤孝之
◆ 二種類の根拠を設定する言語技術	藤原かおり
◆ 説明的な文章の授業づくり — 育成すべき資質・能力とその評価 —	松山宜申
◆ 「明確な根拠とは何か」	佐野一機
四 授業三 「読むこと」（説明的文章）領域での言語技術指導	
— 教材名『笑うから楽しい』（光村小六）—	
◆ 国語科学習指導案『書き手の「述べたいこと」を理解するために「読む」』小学六年生	安 暁彦
◆ 「述べたいこと」を理解するために「読む」	同
◆ 本教材で学ばせたいこと	開田晃央
◆ 言語技術指導の材料が豊かな教材	照井孝司
◆ 「叙述を基に正確に捉え」させよ	上原秀一
◆ 説明的文章の授業づくりと言語技術	井上善弘
◆ 因果関係や具体と抽象の関係を読む	中村孝一
◆ 「笑うから楽しい」における合文脈音読の指導	神部秀一
◆ 筆者の主張を捉える言語技術 — 一般論と対立させる —	池田尚子
◆ 読みの系統性を意識した説明文教材の学習	徳山大輔
◆ 説明文はリライトすべし	井上敬夫
◆ 「笑うから楽しい」二つの疑問	松澤正仁
◆ 視覚化で協働的な学びを実現する言語技術	川又智子
◆ 「事例の考察」と「主張」とが区別されていない	大貫眞弘
五 授業四 「読むこと」（文学的文章）領域での言語技術指導	
— 教材名『高浜虚子の俳句を読み味わおう』（小学高学年）—	

◆ 国語科学習指導案『高浜虚子の俳句を詠み味わおう』小学高学年	野口芳宏
◆ 言語人格の向上に培う言語技術教育を	同
◆ 「作品に固有に内包する価値」に迫るための言語技術	富樫忠浩
◆ 俳句の素材研究・教材研究の一方法 — できるだけ簡便な方法を —	山中伸之
◆ 俳句に名前をつけ、気に入った俳句を選ぶ	長谷川祥子
◆ 野口芳宏詩歌鑑賞指導研究序説	柳谷直明
◆ 俳句の鑑賞と伝統文化，言葉による「見方・考え方」 — 高浜虚子を例に —	佐藤洋一
◆ 十分な教材研究に基づいた「言語技術」の見える授業	富樫いずみ
◆ 季節の移ろいを味わう	岩崎 淳
◆ 作者の感動を理解するための「言語技術」の指導	斉藤美智子
◆ 対比と類比で形象化させる	岩下 修
◆ 野口芳宏の鑑賞指導を追う — 作者の感動に近づける的確な内容理解 —	塚田直樹
◆ 五・七・五のリズムに乗せた感動の表現	高橋秀一
◆ 国語学力形成を明確かつ具現化する鑑賞指導～中心テーマ(季題)の検討を通して～	三浦 弘
六 第31回研究大会(栃木・ハイブリッド大会)報告	渥美清孝
編集後記	柳谷直明

Ⅲ 令和6(2024)年度理事会(令和5年9月3日開催)

1 2024年度学会役員

退任2名，新任1名が承認され，下記の役員で運営していく。

【会長，代表理事】 柳谷直明

【会長代行，副会長】 中村孝一

【会長代行，副会長】 今井 東

【会長代行，副会長】 渥美清孝

【常任理事】

・柳谷直明 ・中村孝一 ・今井 東 ・渥美清孝 ・野口芳宏 ・大内善一

【理事】(五十音順)

・渥美清孝 ・井上善弘 ・今井 東 ・岩崎 淳 ・岩下 修 ・大内善一
 ・大貫眞弘 ・小川智勢子 ・開田晃央 ・木山麻衣子 ・京野真樹 ・國府田祐子
 ・小森 茂 ・佐藤洋一 ・篠原京子 ・高木輝夫 ・高橋 勲 ・高橋秀一
 ・田邊 泰 ・鶴田清司 ・照井孝司 ・富樫いずみ ・富樫忠浩 ・中村孝一
 ・中村麻里那 ・西山悦子 ・野口芳宏 ・長谷川祥子 ・平河 力 ・増田 泉
 ・松澤正仁 ・望月善次 ・安 暁彦 ・柳谷直明 ・山中伸之 ・渡邊靖之

<退任> ・兵藤伸彦 ・吉川和良 ※本人の御希望による。

<新任> ・田邊 泰 ※西山理事の推薦による。 (計36人)

【監事】

・中村麻里那(茨城支部) ※理事と兼任 ・渡辺真由美(神田支部)

【事務局長】 渥美清孝 ※副会長と兼任

2 決算報告・予算案

決算報告と予算案が承認された。

令和5（2023）年決算・令和6（2024）年予算

令和5（2023）年9月3日（日）

日本語技術教育学会 令和5（2023）年度大会収支を含む令和5（2023）年度 決算報告

日本語技術教育学会事務局長 渥美清孝

令和5（2023）年度大会収支を含む令和5（2023）年度は、令和4（2022）年9月4日理事会当日から令和5（2023）年9月3日理事会前日までです。

今回の決算には、令和5（2023）年第32回静岡大会の参加費、経費等が含まれています。

収入

(単位：円)

科目	細目	今年度予算額	今年度決算額	増減	備考
	繰越金	2,055,660	2,055,660	0	
参加費	令和五(二〇二三)年第三十二回静岡大会	240,000	128,000	△112,000	4,000円(会員事前)32名
		135,000	31,500	△103,500	4,500円(非会員事前)7名
		25,000	16,000	△9,000	2,000円(学生事前)8名
		90,000	18,000	△72,000	4,500円(会員当日,リモート)4名
		100,000	95,000	△5,000	5,000円(非会員当日,リモート)19名
		30,000	5,000	△25,000	2,500円(学生当日,リモート)2名
会費	新規	30,000	15,000	△15,000	5名
雑収入	紀要	30,000	11,170	△18,830	過去紀要販売
	雑費	10	17	7	利息他
	合計	2,735,670	2,375,347	△360,323	

支出

	科目	細目	今年度予算額	今年度決算額	増減	備考
研究大会事務局	事務費	消耗品費	30,000	10,451	△19,549	封筒,用紙他
		印刷・製本費	50,000	0	△50,000	インク
	会場費	会場使用費	30,000	15,010	△14,990	大会会場費
	通信・運搬費	通信費	30,000	0	△30,000	メール便,郵券他
		運搬費	0	2,790	2,790	資料等荷物急便費
	会議費	茶菓費	40,000	51,196	11,196	役員弁当代
	報償費	アルバイト	20,000	15,000	△5,000	学生アルバイト(3,000円×5人)
	予備費		0	0		
	小計	200,000	94,447	△105,553		
本部事務局	事務費	消耗品費	10,000	25,088	15,088	HP更新費,封筒,SD,Zoom契約料補助他
		印刷費	250,000	281,385	31,385	溪水社支払い
	会場費	使用料	10,000	0	△10,000	
	通信・運搬費	通信費	10,000	5,478	△4,522	メール便,郵券他
		運搬費	20,000	26,444	6,444	資料等宅急便代
	会議費	茶菓費	0	0	0	
	報償費	アルバイト	0	0	0	資料整理
	予備費		2,235,670	1,942,505	△293,165	繰越金
	小計	2,535,670	2,280,900	△254,770		
	合計	2,735,670	2,375,347	△360,323		

収支 2,375,347 - 2,375,347 = 0

令和5（2023）年決算・令和6（2024）年予算

令和5（2023）年9月3日（日）

日本語技術教育学会 令和6（2024）年度大会収支を含む令和6（2024）年度予算案

日本語技術教育学会事務局長 渥美清孝

令和6（2024）年度大会収支を含む令和6（2024）年度は令和5（2023）年9月3日（日）理事会当日から令和6（2024）年第33回群馬大会後理事会前日までです。今回の予算には、令和6（2024）年第33回群馬大会参加費、経費等が含まれていません。

収入

（単位：円）

科目	細目	前年度予算額	今年度予算額	増減	備考
	繰越金	2,055,660	1,942,505	△113,155	
参加費	令和六（二〇二四）年第三十三回〇〇大会	240,000	160,000	△80,000	4,000円（会員事前）40名
		135,000	135,000	0	4,500円（非会員事前）30名
		25,000	15,000	△10,000	3,000円（学生事前）5名
		90,000	45,000	△45,000	4,500円（会員当日，リモート）10名
		100,000	50,000	△50,000	5,000円（非会員当日，リモート）10名
		30,000	17,500	△12,500	3,500円（学生当日，リモート）5名
					合計100名参加予定
会費	新規	30,000	30,000	0	10名
雑収入	紀要	30,000	30,000	0	
	雑費	10	10	0	利息他
	合計	2,735,670	2,425,015	△310,655	

支出

科目	細目	前年度予算額	今年度予算額	増減	備考	
研究大会事務局	事務費	消耗品費	30,000	20,000	△10,000	封筒，用紙他
		印刷・製本費	50,000	10,000	△40,000	インク，案内印刷，紀要製本他
	会場費	会場使用費	30,000	30,000	0	大会会場費
	通信・運搬費	通信費	30,000	0	△30,000	メール便，郵券他
		運搬費	0	0	0	資料等荷物宅急便代
	会議費	茶菓費	40,000	40,000	0	役員理事弁当代
	報償費	アルバイト	20,000	20,000	0	大会運営アルバイト
	予備費		0	0	0	
	小計	200,000	120,000	△80,000		
本部事務局	事務費	消耗品費	10,000	30,000	20,000	封筒，用紙，SD，Zoom契約料補助他
		印刷費	250,000	300,000	50,000	溪水社支払い
	会場費	会場使用料	10,000	0	△10,000	
	通信・運搬費	通信費	10,000	10,000	0	メール便，郵券他
		運搬費	20,000	10,000	△10,000	資料等荷物宅急便代
	会議費	茶菓費	0	0	0	
	報償費	アルバイト	0	0	0	資料整理
予備費		2,235,670	1,955,015	△280,655	繰越金	
	小計	2,535,670	2,305,015	△230,655		
	合計	2,735,670	2,425,015	△310,655		

収支 2,425,015 - 2,425,015 = 0

IV 日本言語技術教育学会第32回大会(静岡・ハイブリッド大会)

1 大会テーマなど

【大会テーマ】言語技術が見える授業づくり

【期 日】令和6(2024)年6月29日(土)

【後 援】文部科学省, 群馬県教育委員会

【会 場】育英短期大学 125 大講義室 [〒370-0011 群馬県高崎市京目町 1656-1]

【参加費】事前入金(6月28日締切)非会員 4,500円 会員 4,000円 学生 2,500円

当日入金 非会員 5,000円 会員 4,500円 学生 3,000円(資料他込)

懇親会(事前のみ) 5,000円

2 日程

9:00 受付開始

9:45 諸連絡 渥美清孝(事務局長) 実行委員長挨拶 今井 東(副会長)

9:50 開会挨拶 柳谷直明(会長)

第一部 提案授業

10:00~10:25 模擬授業1 「話すこと・聞くこと」領域

教材名 『子供学芸員になろう～対話による絵画の鑑賞を通して～』(小4)

授業者 京野真樹(秋田大学教育文化学部附属小学校)

10:30~10:55 模擬授業2 「書くこと(作文)」領域

教材名 『「ミニ芥川賞作家になろう」—テキスト生成AI ChatGPT の選択を通して—』(小6)

授業者 山本裕貴(木更津市立鎌足小学校)

11:05~11:30 模擬授業3 「読むこと(説明的な文章)」領域

教材名 『固有種が教えてくれること』(光村小5)

授業者 瀧沢葉子(上尾市立大石北小学校)

11:35~12:00 模擬授業4 「読むこと(文学的文章)」領域

教材名 『野口流小出し方式による詩の授業』(小3)

授業者 岩下 修(元立命館小学校)

12:00 諸連絡(昼食場所・総会案内等)

12:10 昼休み・理事会

13:00 学会総会(事業・会計報告, 事業・予算案等)

第二部 提案授業の検討

13:30~14:20 検討1 「話すこと・聞くこと」領域

指定討論者・司会 開田晃央(大洗町立大洗小学校)

提案者 京野真樹(秋田大学教育文化学部附属小学校)

指定討論者 中村麻里那(茨城大学教育学部附属中学校)

渥美清孝(弟子屈町立弟子屈小学校)

長谷川祥子(青山学院大学)

野口芳宏(植草学園大学名誉教授)

- 14：25～15：15 検討2「書くこと(作文)」領域
 指定討論者・司会 大内善一(茨城大学名誉教授)
 提案者 山本裕貴(木更津市立鎌足小学校)
 指定討論者 安 暁彦(茨城大学教育学部附属中学校)
 西山明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校)
 國府田祐子(淑徳大学)
 柳谷直明(芦別市立啓成中学校)
- 15：25～16：15 検討3「読むこと(説明文)」領域
 指定討論者・司会 富樫忠浩(栗山町立栗山小学校)
 提案者 瀧沢葉子(上尾市立大石北小学校)
 指定討論者 高木輝夫(ひたちなか市立枝川小学校)
 山中伸之(栃木市立太平中央小学校)
 照井孝司(せせらぎ国語教室)
 中村孝一(常葉大学)
- 16：20～17：10 検討4「読むこと(文学)」領域
 指定討論者・司会 今井 東(育英短期大学)
 提案者 岩下 修(元立命館小学校)
 指定討論者 松澤正仁(元愛媛県公立小学校)
 河内昭浩(群馬大学)
 増田 泉(群馬医療福祉大学)
 佐藤洋一(岡崎女子大学)

※ 所属は令和5年12月時点のもの。

- 17：15 閉会挨拶
 17：20 諸連絡, 懇親会案内他

3 大会申し込み方法

- (1) 大会名をネットで検索し「こくち一ず」で申し込みます。
 こくち一ず <https://www.kokuchpro.com/event/060629/>
- (2) 下記ゆうちょ銀行口座への入金をお願いします。
- ①ゆうちょ銀行からの入金「振替口座記号番号 02710-1-51406/口座名称 渥美清孝(アツミキヨタカ)」
- ②ゆうちょ銀行以外からの入金「店名(店番)二七九(ニナナキュウ)店(279)/預金種目 当座/口座番号 0051406」
- (3) 入金後に入金告知, 氏名, 勤務先, Eメールアドレス, 総会と懇親会の参加の有無を下記事務局へメールします。
- (4) 「こくち一ず」以外の申込み問合せ先は下記です。
 第33回大会実行委員会受付担当：渥美清孝 E-mail k8m8y2@gmail.com



4 令和7年度第1回理事会

■日 時 2024年6月29日(土)12：10～12：50 ■場 所 育英大学122 絵画実習室

日本語技術教育学会

第33回群馬大会

大会テーマ 言語技術が見える授業づくり

『子供学芸員になろう～対話による絵画の鑑賞を通して～』(小4) /
『「ミニ芥川賞作家になろう」——テキスト生成AI(ChatGPT)の選択を通して——』(小6) /
『固有種が教えてくれること』(光村小5) / 『野口流小出し方式による詩の授業』(小3) で
身に付けさせよう言語技術

【期 日】令和6(2024)年6月29日(土) 9:50~17:20

【後 援】文部科学省, 群馬県教育委員会(申請予定)

申込先「こくち一ず」→

【会 場】青英短期大学 125大講義室 [〒370-0011 群馬県高崎市京目町1656-1]

J R 高崎駅より上信バスで約20分



【参加費】 ■事前入金(6月28日入金まで有効) 会員4,000円 非会員4,500円 学生2,500円(資料他込み)

■当日入金 会員4,500円 非会員5,000円 学生3,000円 ■懇親会 事前のみ 5,000円

9:00 受付開始 座席指定無。隣を空ける。	第2部 提案授業の検討
9:45 連絡 渥美清孝(事務局長) 実行委員長挨拶 今井 東(副会長)	
9:50 開会挨拶 柳谷直明(会長)	
第1部 提案授業	
模擬授業1 『子供学芸員になろう～対話による絵画の鑑賞を通して～』(小4)	検討1 話すこと・聞くこと 13:30~14:20(50分)
10:00~10:25 (25分) 授業者 京野真樹(秋田大学教育文化学部附属小学校)	指定討論者・司会 開田晃央(大洗町立大洗小学校) 提案者 京野真樹(秋田大学教育文化学部附属小学校) 指定討論者 中村麻里那(茨城大学教育学部附属中学校) 渥美清孝(弟子屈町立弟子屈小学校) 長谷川祥子(青山学院大学) 野口芳宏(植草学園大学名誉教授)
模擬授業2 『「ミニ芥川賞作家になろう」——テキスト生成AI(ChatGPT)の選択を通して——』(小6)	検討2 書くこと(作文)14:25~15:15(50分)
10:30~10:55 (25分) 授業者 山本裕貴(木更津市立鎌足小学校)	指定討論者・司会 大内善一(茨城大学名誉教授) 提案者 山本裕貴(木更津市立鎌足小学校) 指定討論者 安 暁彦(茨城大学教育学部附属中学校) 西山明人(東京農業大学第三高等学校附属中学校) 國府田祐子(淑徳大学) 柳谷直明(芦別市立啓成中学校)
模擬授業3 『固有種が教えてくれること』(光村小5)——教科書教材は各自で御用意ください。——	検討3 読むこと(説明文)15:25~16:15(50分)
11:05~11:30 (25分) 授業者 瀧沢葉子(上尾市立大石北小学校)	指定討論者・司会 富樫忠浩(栗山町立栗山小学校) 提案者 瀧沢葉子(上尾市立大石北小学校) 指定討論者 高木輝夫(ひたちなか市立枝川小学校) 山中伸之(栃木市立大平中央小学校) 照井孝司(せせらぎ国語教室) 中村孝一(常葉大学)
模擬授業4 『野口流小出し方式による詩の授業』(小3)	検討4 読むこと(文学)16:20~17:10(50分)
11:35~12:00 (25分) 授業者 岩下 修(元立命館小学校)	指定討論者・司会 今井 東(青英短期大学) 提案者 岩下 修(元立命館小学校) 指定討論者 松澤正仁(元愛媛県公立小学校) 河内昭浩(群馬大学) 増田 泉(群馬医療福祉大学) 佐藤洋一(岡崎女子大学)
12:00 諸連絡(昼食場所・総会案内等) 12:10 昼休み・理事会 13:00 学会総会(事業・会計報告, 事業計画・予算案等)	17:15 閉会挨拶 中村孝一(副会長) 17:20 諸連絡, 懇親会案内他
※ ビデオ不可, 写真撮影は個人使用の場合のみ可。 ※ 所属は令和5(2023)年12月現在です。 ※ 懇親会は17時30分~(予定)です。	
参加方法	(1)大会名をネットで検索し, 「こくち一ず」で申込みます。次に, 下記のゆうちょ銀行口座への入金をお願いします。 (2)①ゆうちょ銀行からの入金「振替口座記号番号02710-1-51406/口座名称 渥美清孝(アツミキョウタカ)」 ②ゆうちょ銀行以外からの入金「店名(店番) 二七九(ニナナキユウ)店(279)/預金種目 当座/口座番号0051406」 (3)入金後, 入金告知, 氏名, 勤務先, Eメールアドレス, 総会と懇親会の参加の有無を下記事務局へメールします。 (4)「こくち一ず」以外の申込み, 問合せ。第33回大会実行委員会受付担当 渥美清孝 E-mail: k8m8y2@gmail.com

V 学会紀要について

紀要第1号～第21号は明治図書から、第31号・第32号は溪水社から刊行した。

『言語技術教育 第1号』(1993, 明治図書) 特集 言語技術教育でどんな力がつくか(1580円)

『言語技術教育 第2号』(1994, 明治図書) 特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する(1794円)

『言語技術教育 第3号』(1995, 明治図書) 特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する(1794円)

『言語技術教育 第4号』(1995, 明治図書) 特集 この文学教材でこの言語技術を教える(2314円)

『言語技術教育 第5号』(1996, 明治図書) 特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか(1682円)

『言語技術教育 第6号』(1997, 明治図書) 特集 論理的思考力を鍛える作文技術(1995円)

『言語技術教育 第7号』(1998, 明治図書) 特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか(1890円)

『言語技術教育 第8号』(1999, 明治図書) 特集 音声言語指導の教材開発・授業開発(2058円)

『言語技術教育 第9号』(2000, 明治図書) 特集 総合的学習を支える言語技術とは何か(2205円)

『言語技術教育 第10号』(2001, 明治図書) 特集 総合的学習と「読み・書き」の技術(2058円)

『言語技術教育 第11号』(2002, 明治図書) 特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術(1953円)

『言語技術教育 第12号』(2003, 明治図書) 特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任(1995円)

『言語技術教育 第13号』(2004, 明治図書) 特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か(1760円)

『言語技術教育 第14号』(2005, 明治図書) 特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける(1890円)

『言語技術教育 第15号』(2006, 明治図書) 特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革(1953円)

『言語技術教育 第16号』(2007, 明治図書) 特集 国語学力を育てる言語技術教育(1953円)

『言語技術教育 第17号』(2008, 明治図書) 特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業(1953円)

『言語技術教育 第18号』(2009, 明治図書) 特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術(1680円)

『言語技術教育 第19号』(2010, 明治図書) 特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは(1890円)

『言語技術教育 第20号』(2011, 明治図書) 特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる(1953円)

『言語技術教育 第21号』(2012, 明治図書) 特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか(1890円)

『言語技術教育 第22号』(2013, 私家版) 特集 単元を貫く言語技術を解明する(1890円)

『言語技術教育 第23号』(2014 特集 言語技術が見える授業づくり-学力向上に役立つ言語技術-(500円)

『言語技術教育 第24号』(2014, 私家版) 特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何か—「ごんぎつね」を例に—(500円, 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第25号』(2015, 私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「大造じいさんとが

ん」「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる—」で身につけさせる言語技術—(500 円, 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 26 号』(2016, 私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「ごんぎつね」「天気を予想する」で身につけさせる言語技術—(500 円, 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 27 号』(2017, 私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「スイミー」「すがたをかえる大豆」「短歌」で身につけさせる言語技術—(500 円, 残部有, 希望者は事務局へ照会), 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 28 号』(2018, 私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「リクエスト給食のメニューを決めよう(話す・聞く)」「新商品のよさを伝えよう(書く)」説明文「未来に生かす自然のエネルギー」文学「海のいのち」で身につけさせる言語技術—(500 円, 残部有, 希望者は事務局へ照会), 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 29 号』(2019, 私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「論理的に読む学習」「すがたをかえる大豆」「天気を予想する」「ふきのとう」で身につけさせる言語技術—(1000 円, 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 30 号』(2020, 私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり —「反論を先取りして主張する」「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」「一つの花」「話し方」で身につけさせる言語技術—(1000 円, 残部有, 希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 31 号』(2022, 溪水社) 特集 言語技術が見える授業づくり—「聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る」「図や表を活用して書く作文指導」「メディアと人間社会」「走れメロス」で身につけさせる言語技術—(2090 円, 販売は Amazon : <https://amzn.asia/d/2iwAGfL>)

『言語技術教育 第 32 号』2023 特集 言語技術が見える授業づくり—「他者の発言に心傾けて」「根拠を明確にして意見・感想を述べる」「笑うから楽しい」「高浜虚子の俳句を詠み味わおう」で身につけさせる言語技術—(2090 円, 販売は Amazon : <https://amzn.asia/d/6LOV78W>)

明治図書、溪水社発行言語技術教育は Amazon で購入できます。→
私家版は事務局に残部があります。事務局に照会してください。



VI 新規会員の申し込みについて

本学会は研究者と実践者が意見交換できる貴重な場です。また、言語技術教育の解明、普及のために提案を続けています。この価値ある場へお誘いください。会の普及に御協力ください。

- (1) 下記の口座へ入会金 3,000 円を入金。(年会費無料)
- (2) Eメールで事務局(渥美 mail:k8m8y2@gmail.com)へ住所、氏名、勤務先を連絡。
- (3) 事務局からの返信メールの受信。(3日以内に返信がない場合、再度メールを送信ください。)

◎入会金の入金先

- ・ゆうちょ銀行「記号 19700/番号 16017741 ニホンゲンゴギジュツキョウイクガツカイ」
- ・ゆうちょ銀行他金融機関「店名九七八/店番 978/預金種目普通預金/1601774」

※ 学会会場の受付でも入会手続きが可能です。

VII 学会ホームページ

学会のホームページアドレスは以下の通りです。

■日本言語技術教育学会ホームページ

<http://tankokuken.html.xdomain.jp/nihongengo/index.htm>

日本言語技術教育学会

